

第19回 アンパイアスクール報告書

北支部 報告者 八木 恒司

□期 日 平成30年12月1日(土)～2日(日)

□会 場 J R東日本硬式野球部柏グランド

□講 師 【BFJ】中本 尚委員長、小山 克仁、堀井 明、小出 嘉則、山口 智久
【NPB】友寄 正人審判長、平林 岳技術委員、22津川 力、28牧田 匡平
25石山 智也、55岩下 健吾、31長川 真也、62青木 昴、
56森口 壽樹

□モデルチーム 中央学院大学野球部

□講習内容

①GO-STOP-CALL 【担当 山口氏】

1-1. GO-STOP-CALL

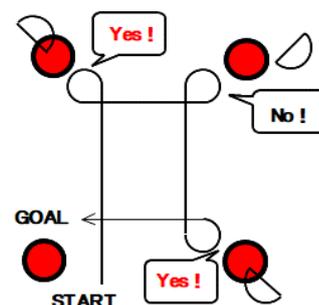
- ・GO-STOP-CALLは止まる練習、打球をイメージして行う。
- ・プロはストップと同時にセットポジションを行うが、アマチュアはスタンディングからセットポジションへ入る。

1-2. ピボットの仕方とコーンドリル

- ・打球を見ることが大切、触塁を確認（ベースを見る）。
- ・加速→減速してボールの位置を確認する。
- ・ピボットターンする時もしっかりとステップを踏む。
- ・右足で入り左足のつま先を進行方向へ向ける。

◆初めて行ったコーンドリルを紹介します。

コーンを確認する時にコーンを踏んでいたら “Yes、踏んでいなかったら “No、” と発声して触塁確認を練習しました。



②球審の基本動作 【担当 堀井氏】

●投球判定

- ・マスクを着ける時は視界を遮らない。
- ・“プレイ、”はダーツを投げる様に大きな声で行う。
- ・オンザラバー時は投手から目を離さず集中する。
(ボークなどが考えられる)
- ・ゲットセットはスムーズに身体を下ろす。
(キャッチャーの頭上にマスクのアゴを合わせる)
- ・コール・ザ・ピッチはトラッキングを行い、力強く右斜め45°にナイフを突き刺す様に肘を起点として振る。
- ・キャッチャーとの距離は常に一定に保ち、キャッチャーが動いた場合はアジャストして合わせる。

●ハーフスイング

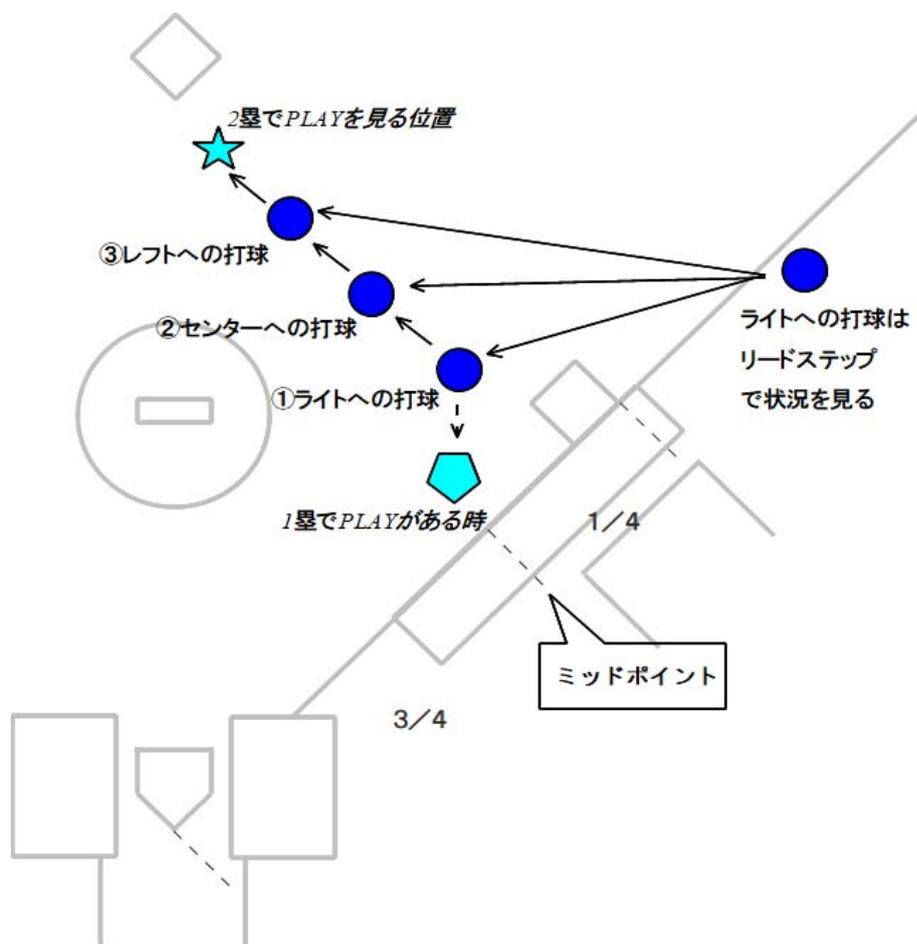
- ・2人制では左打者であっても1塁にいる塁審に「Did he go?」と確認する。
(右打者は右手で、左打者は左手で)
- ・スイングした場合は「Yes, he went」(振りました)とコールする。
- ・スイングしていない場合は「No, he didn't go」(振っていません)とコールする。

③1塁でのフォースプレイの見方 【担当 NPB岩下氏】

- ・スタートポジションは1塁手の2~3m後方でノーランナー時は顔だけ投手へ向ける。
(身体はホームへ正対する。)
- ・2塁への打球で正面から2塁ベース寄りの打球はファウルラインより1歩内側に入り判定する。
- ・同じく正面より1塁側へのプレッシャーを感じる場合は、ファウルラインより外側へ素早く移動してピボットマンと90°の位置で判定する。
- ・判定する時はベースから5~6m離れた位置が良い。
- ・打球が打たれたらポーズ(上体を起こして見る)→リード(判断)→リアクト(左足から90°の位置へ移動)を身体に覚えさせる。

④ピボットの仕方 【担当 NPB岩下氏】

- ・ピボットする際は、ウォッチ・ザ・ボール『打球・守備・ランナー(触塁)』を見る。
- ・打球によってピボットターンする位置を変える。



■ 走者無し 内野ゴロ

塁審・・・ 2塁手のプレッシャーボール以外は内側、プレッシャーが掛かる時だけファウルテリトリーに出る。

外側に位置する時の悪送球はボールを見に行く。

(内側の時は素早くピボットターンで2塁方向へ向かう)

1塁での戻りプレイもあるため状況を良く見極めること！

※1塁線ベースが絡む打球はポイントを出した塁審がピボットターンで2塁へ向かうこと。

球審・・・ 45フィートまで行き必ず『止まる』こと (打者走者の確認)

塁審の動きで内側・外側を判断する。

悪送球ならボールデッドゾーンまで見に行く。

(塁審が外側なら内側に素早く切り込む)

■ 走者無し 外野飛球

塁審・・・ ライトライン際、トラブルボールの場合はリードステップで打球を判断し、“I’m Going Out、”と声を出して打球判定へ行く。

上記以外はピボットターンで内側へ入る。

球審・・・ 塁審がピボットターンしたら打球を受け持つ。

◇センターよりレフト線側の打球は球審のテリトリーなので声はいらない。

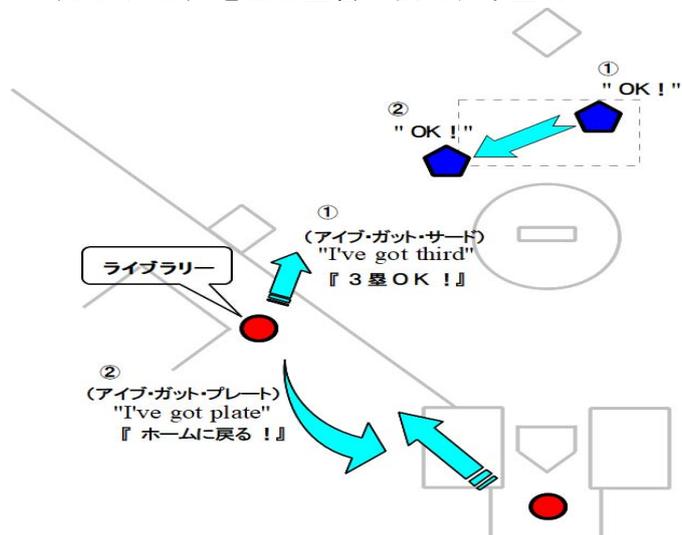
■ 走者1塁

塁審・・・ 2塁前内側に位置して、ライン際以外の外野飛球を受け持ちスタンディングで打球の判定を行う。

走者は2塁まで受け持つが、球審が“I’m on the line、”(ライト線への打球)の時は“OK、”と声を出し3塁までを受け持つ。

球審・・・ ライト線(I’m on the line)以外は“I’ve got third、”(3塁OK!)と塁審へ伝えて3塁へ上がる。

※3塁に上がる時はファウルテリトリーを上がり、ライブラリーでプレイを見て判断する。ランナーが本塁へ来るとしたら“I’ve got plate、”(ホームへ戻る!)と声を出し塁審へ伝え、本塁でのプレイに備える。



●牽制球

塁審・・・ 1歩でミッドポイントへつま先を踏み出す。

球審・・・ マスクを取って右側へステップして1塁のプレイを見る。

※塁審も1球毎にステップをして次のプレイに備えると良い。

●盗塁

①キャッチャーが捕球したら身体を起こし、送球姿勢に入ったら右足のつま先を2塁へ向ける。

②送球がピッチャーを通過する時にターンして2塁に正対し、ハンズオンニーセットポジションで判定を行う。

※2塁がセーフなら3塁方向へ移動して次のプレイに備える。

●ダブルプレー [ランナー1塁(1・3塁)時は2塁側 その他は3塁側に位置する。]

◆1塁側に位置した場合

①打球方向へステップアップする。

②ターンをして野手に正対する。

③ドロップステップで2塁ベースへ正対する。

④右足を1塁側(ミッドポイント)へ踏み出し2塁のジャッジを行う。

⑤シザースで1塁のジャッジを行う。

※2塁は送球するまで目を切らず、送球しない時は1塁へは踏み出さない。

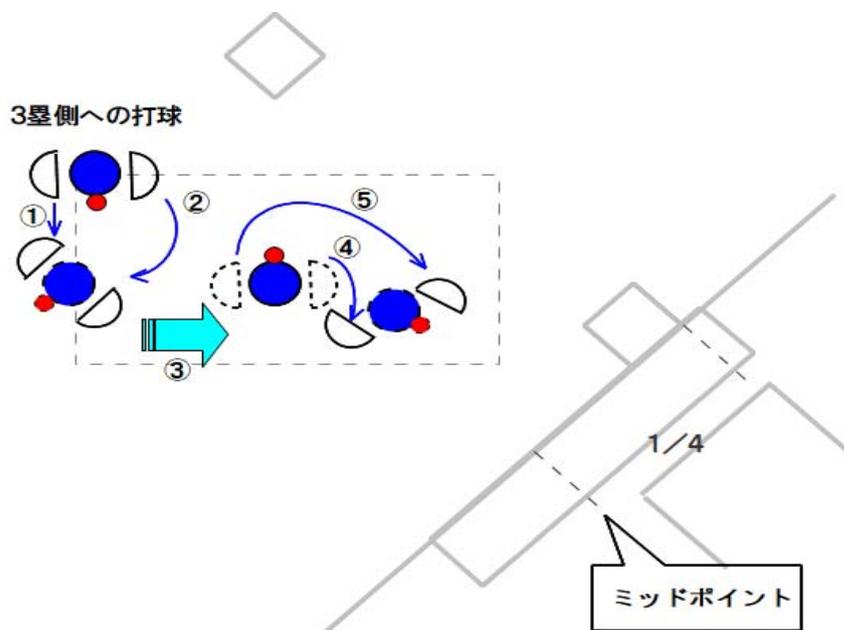
◆3塁側に位置した場合

①打球方向へステップアップする。

②ターンをして野手に正対する。

③捕球が確定したらワーキングエリア中央へ素早く移動する。

④以降は1塁側同様の動き



ステップアップ・・・打球が打たれた側の足を前に踏み出すこと。

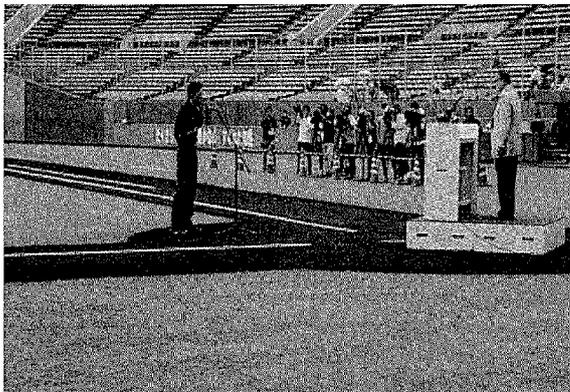
- 2班で球審と塁審に分かれて1組づつケーススタディーを行いました。

⑧座学 【夕食後ホテルにて】

1. 国際大会報告 [小山氏]

- ・国際審判員派遣レポート 2018年各大会への派遣状況報告
その中でも北支部の佐藤誠さんが9/3～10 第12回BFA U-18アジア選手権
日本（宮崎）へ派遣され活躍された報告に嬉しさを感じました。

BFA U-18 アジア選手権



開会式において

日本代表として、佐藤誠さんが開会式で「Umpireの宣誓」を担当いたしました。英語での宣誓でしたが、前日に必死の思いで覚え何とか無事に大役を務めることができ、一生の思い出となりました。開会式後には、レフトフィールドで審判員全員での「GO STOP CALL」の基本を実施し、感慨深い気持ちで大会へ望むことになりました。

2. 1年を振り返って [NPB審判員 石山氏、津川氏]

3. 2人制のポイントについて [NPB技術委員 平林氏]

⑨本塁周辺のプレイ 【担当 NPB長川氏】

- 捕手へのインターフェア（盗塁時）
 - ・右手で妨害した位置を指差し「インターフェアレンス」とポイントする。
 - 2塁セーフの時は、打者をアウトにして走者を1塁へ戻す。
- バックスイングインターフェア時
 - ・同じく「バックスイングインターフェアレンス」とポイントする。
 - 2塁セーフの時は、走者を1塁へ戻して打者に注意を行う。

ポイント:インターフェア等の処置はマウンドとホームプレートの間（ステージ）まで行って、球場全体に知らせる様に行う。

今回で2回目の参加をさせていただきました。

その中でも、2年前より高野連支部別審判講習会旧下越地区へ講師として来られている山口智久さんの班（3班）に割り振りいただき、寒さと疲れを忘れて2日間とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

また、日常テレビで見ているNPBの試合や日本シリーズでジャッジされていた、審判の方々が身近でデモンストレーションや指導をして頂ける機会を与えていただいた事に感謝いたします。

2人制は余り行うことはありませんが、打球に対して正対し、プレイを判断して走者の動きと触塁を確認、起こりうるプレイを想定する事は4人制でも生かせる部分ではないかと感じました。

山口講師からは、ジェスチャーや声で多くの人に伝える工夫や常に見られている、格好良く見えることを意識した方が良いとお言葉をいただきました。

この講習会で学んだ内容を今後に生かして、信頼される審判員を目指します。

参加にあたりご支援いただきました新潟県高等学校野球連盟をはじめ審判委員の皆様へ感謝申し上げます。

新潟県高等学校野球連盟審判部会

北支部審判委員

佐藤 八十穂、渡辺 壮、錦沢 広輝

大竹 彦司、八木 恒司